社会を意識した投資をするための読書案内

坂本光司「日本でいちばん大切にしたい会社」(2008)

著者は**企業経営とは「五人に対する使命と責任」を果たすための活動**と説く。

1. **社員とその家族**を幸せにする
   社員が幸せであってこそ、お客様に良いサービスを提供できる。
2. **外注先・下請企業の社員**を幸せにする
   赤字を下請に押しつけてはダメ。誰かの犠牲の上に成立つ組織は正しくない。
3. 社員と外注企業の満足度を高めることが、**顧客**を幸せにつながる。
4. **地域社会**を幸せにし、日常的な企業活動を通じて、地域住民の誇りとなる。
5. 自然に生まれる**株主**の幸せ
   上記4人の満足度を高めれば、株主の満足度も必然的に発生する。株主に対する使命と責任は、目的ではなく結果として実現する。

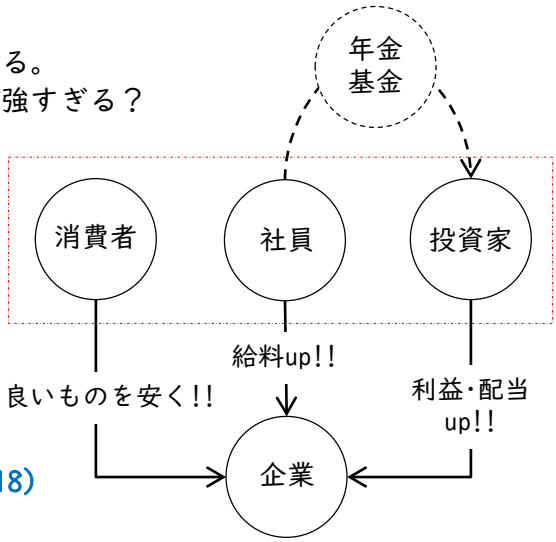
私はこの本と出会いをきっかけに、**株主として誇れる企業に投資したい！と考えるように。**
運用期間が長くなるほど「配当」が重要に。良き事業の結果として残る利益から配当を得たい！
個別株への投資だけではなく、同じような想いを持った投資信託をお金を託すという手もある。

鎌田恭幸「日本でいちばん投資したい会社」(2011)

鎌倉投信・鎌田社長の著書。創業準備中に上記の坂本氏の著書と出会い、運用方針が決まったことが明かされている。
同社が運用する「結い2101」は、投資家の長期的な資産形成と社会の持続的発展に貢献することを掲げ、運用状況等の情報開示がきめ細やかで信頼できる。私が継続して投資を続ける唯一の投資信託です。

私たちは一人三役で相反する主張を企業に突きつけている。
近年は投資家（年金基金を通じ誰もが投資家）の立場が強すぎる？
金融中心に変貌した資本主義の問題点を学ぶ。

- スーザン・ストレンジ「カジノ資本主義」(1986)
- 原丈人「21世紀の国富論」(2007)
- ジョン・ボーグル「波瀾の時代の幸福論」(2009)
- 奥村宏「資本主義という病」(2015)
- ロバート・ライシュ「最後の資本主義」(2017)
- ジャン・ティロール「良き社会のための経済学」(2018)



吉田 喜貴 （よしだ よしたか）

個別株への長期投資が信条の個人投資家。長期の視点を保つため、日本の歴史・文化の探求をライフワークとする。
詳細なプロフィールはブログに掲載 → https://pixy10.org/profile